

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
ES12B004	学校危機管理の理論とプログラム開発(Practical Research on Risk and Crisis Management in Schools)					学校経営コース科目						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修	2	1	大学院教育学研究科			氏名 山崎清男、福本昌之、有定裕雅 E-mail yamasaki(山崎)、mfukumoto(福本)、arisada-hiromasa(有定) 内線 7542(山崎)、7978(福本)、6130(有定)						
授業の概要	・学校危機管理の理論を修得し、危機管理のためのプログラム開発に関する理解を深め、危機管理上の諸課題について検討し、対応策を立案する力を養う。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	学校危機管理に関する基本的な理論を修得する											
目標2	学校危機管理に関する学校現場の事例を題材として現状の課題を発見する											
目標3	学校危機管理に関する現状の課題に対し具体的な対応策を立案・検討する											
目標4	学校危機管理計画(学校安全計画、危機管理マニュアル等)の策定について深く理解する											
目標5	現在の勤務校等の学校危機管理計画に関する現状の課題を発見する											
目標6	現在の勤務校等の学校危機管理計画に関する現状の課題に対し、具体的な対応策を立案・検討する											
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	授業テーマに関する具体的な課題の理解											
2	学校危機管理に関する講義と事例分析 - 学校における安全教育の概要											
3	学校危機管理に関する講義と事例分析 - 学校における安全管理の概要											
4	学校危機管理に関する講義と事例分析 - 学校の施設及び設備の整備充実											
5	フィールドワーク											
6	学校危機管理に関する講義と事例分析 - 学校安全に関する組織的取組											
7	学校危機管理に関する講義と事例分析 - 地域社会、家庭との連携											
8	フィールドワーク											
9	現在の勤務校等を題材とした学校危機管理の計画立案に関する演習 - 教育課程内活動を中心に											
10	現在の勤務校等を題材とした学校危機管理の計画立案に関する演習 - 教育課程外活動を中心に											
11	フィールドワーク											
12	現在の勤務校等を題材とした学校危機管理の計画立案に関する演習 - 教職員の関わる事件・事故を中心に											
13	現在の勤務校等を題材とした学校危機管理の計画立案に関する演習 - 不審者侵入等を中心に											
14	現在の勤務校等を題材とした学校危機管理の計画立案に関する演習 - 自然災害等を中心に											
15	学習成果の発表と総括											
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	勤務校等の学校安全計画、危機管理マニュアルなど学校危機管理に関する資料等を分析し、課題を発見、発表する。 授業で獲得した知識を基にこれまでの教職生活での経験と合わせて、院生同士の議論を通じて改善策を企画・立案する。			工夫 その他							
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	教員の指示に従い、参考文献、中教審答申等を精読する										
	事後 学修	演習における学習内容・討議内容を整理し、省察を深める 教員の指示に従い、勤務校の学校安全計画、危機管理マニュアルの修正等を行う										
教科書	特になし											
参考書	「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育(平成22年 文部科学省)、「生きる力」を育む防災教育の展開(平成25年 文部科学省)、第2次学校安全の推進に関する計画(平成29年 文部科学省)、学校の危機管理マニュアル作成の手引(平成30年 文部科学省)、防災・避難対策マニュアル2017(平成29年 大分県教育委員会)、いじめ対策に係る事例集(平成30年 文部科学省)、服務研修テキスト(平成29年 大分県教育委員会)											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	複数教員による多面的・総合的評価(受講態度、課題に取組む姿勢、討論への参加等)	70%										
	最終レポート(本授業において学んだ事や今後解決すべき課題など)	30%										
注意事項	・本授業においては、擬似的に教員集団を組織するという側面もあるので、院生同士の双方向のコミュニケーションに努めること。とくに、各自のバックグラウンドの違いや経験値の差を積極的に利用し、自分自身のバイアスや固定観念を省察することに努めてほしい。											
備考												
リンク												
	URL											